

平成 29 年 8 月の解説（府県天気予報）

【8 月の天候状況】

上旬は、台風第 5 号の影響で 5 日には奄美大島、喜界島、屋久島で記録的な大雨となるなど、東・西日本や奄美地方で大雨となった所があり、東日本日本海側の旬降水量はかなり多くなりました。太平洋高気圧に覆われた沖縄・奄美では晴れる日が多かったため、旬平均気温はかなり高くなりました。北日本太平洋側では、オホーツク海高気圧による北東からの冷たく湿った気流の影響で曇りの日が多く、旬間日照時間がかなり少くなりました。

中旬は、オホーツク海高気圧による北東からの冷たく湿った気流の影響で曇りや雨の日が多かったため、北・東日本太平洋側で旬間日照時間がかなり少なく、北日本太平洋側を中心に気温が低くなりました。東・西日本では南からの湿った空気が入りやすく、また気圧の谷や寒気の影響で大気の状態が不安定となったため、大雨となった所がありました。沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多く、旬平均気温がかなり高くなりました。

下旬は、北・東・西日本の天気は数日の周期で変わりました。日本海にのびる前線に向かって南から暖かく湿った空気が入り込んだため、旬の中頃に北・東・西日本日本海側では大雨となった所があり、25 日には秋田県の雄物川（おものがわ）が 7 月に続き再び氾濫しました。日本の南海上では太平洋高気圧の勢力が強く、沖縄・奄美では晴れて気温が高い状態が続いたため、旬平均気温はかなり高くなりました。東・西日本では、南からの暖かい空気の影響により旬平均気温が高く、24 日には 152 地点で猛暑日となり、今年一番の多さとなりました。旬の終わりには大陸から冷たい空気が流れ込んだため、北日本を中心に気温の低い日が多くなりました。

月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、西日本で高く、北・東日本で平年並でした。月間降水量は、東日本日本海側でかなり多く、西日本太平洋側で多くなりましたが、沖縄・奄美では少なく、北日本、東日本太平洋側と西日本日本海側では平年並でした。月間日照時間は、北・東日本太平洋側でかなり少なく、北・東日本日本海側で少なかった一方、沖縄・奄美ではかなり多く、西日本では平年並でした。

【8 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 82%で例年値^{（注）}より 3 ポイント高く、明後日予報は 76%で例年値より 1 ポイント高くなりました。地方別の適中率では、明日予報は東北、東海、中国を除く各地方で例年値を上回り、特に四国地方では例年値よりも 10 ポイント高くなりました。明後日予報では、東北地方と東日本で例年値よりも 3～6 ポイント低くなりましたが、それ以外の地方では例年値以上となり、特に四国地方と九州南部地方では例年値よりも 10～15 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は全国平均で例年値より 0.2 小さい 1.4、最低気温の予報誤差は全国平均で例年値より 0.1 小さい 1.0 でした。最高気温の予報誤差は関東甲信地方を除く各地方で、最低気温の予報誤差は九州南部地方を除く各地方で例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10 月の天気予報の利用にあたって】

秋になると日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過するようになり、天気は数日の周期で変わるようになります。低気圧が急速に発達しながら日本付近を通過する際には、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。天気予報で大雨や強風などが予想された場合は、最新の気象情報や警報、注意報などに十分留意して下さい。また、低気圧の通過後に北よりの冷たい風が吹いて気温が下がり、その後高気圧に覆われて気温が上がるなど、寒暖の変動が大きい時期もあり、健康管理にも留意願います。